

授業紹介「シラバス」

授業科目名：日本史特殊講義 2	単位数：2
担当教員名：坂口満宏	
対象学生：史学 2	
副題 京都の近代 -その産業化と都市化をめぐる諸問題-	
<p>授業の到達目標</p> <p>この講義では、「京都の近代」をめくり、その産業化と都市化の経緯に重点をおき、今日の京都市の都市基盤や市域がどのように整備されてきたのか、ということについて解説していきます。</p> <p>講義の第 1 のポイントは、幕末から 1950 年代までの京都の古地図や写真に写し取られた「京都」と今日の京都を写真などで対比し、変化の様相を確認していくことです。</p> <p>第 2 のポイントは、京都の産業化・都市化の過程で築造された建物や産業遺産を探しだし、それらを「現地調査報告」として紹介してもらうことです。そして最後に定期試験を通して、みなさんなりに「京都の近代」という問題群にアプローチしてもらいます。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>京都という都市は、1200 年余りの歴史のなかで、いくどとなく多くの「改造」を経てきた。そのなかでも明治維新後の「改造」は今日の京都という都市の骨格を形作ったものだが、その実態はほとんど知られていない。そこで本講義では、今日の京都という都市がどのようにつくられてきたのか、という観点から、琵琶湖疏水の建設、内国勧業博覧会の開設と平安神宮の建設、町村合併による市域の拡大、京都と伏見の結びつき、戦時下の京都と空襲被害などの事例を取り上げ、多角的に検討していきます。</p> <p>また受講生には、「現地調査報告」として、2 回</p>	
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 京都の近代を考える視点 2. 京都の町並み 3. 明治初期のまちづくり 4. 琵琶湖疏水建設 5. 遷都 1100 年と内国勧業博 6. 京都電気鉄道 7. (レポート提出) 京都の産業遺産調査報告 (1) 8. (レポート批評とゲストスピーカーによる特別講義) 調査報告の概要とさらなる課題 9. 京都三大事業 10. 町村合併と街路の整備 11. 京都と伏見の結びつき 12. 京都の女学校～歴史の中の京女 13. 戦時下の京都と空襲被害 14. (レポート提出) 京都の産業遺産調査報告 (2) 15. 京都の都市景観と保存問題・1960 年代から今日 <p>定期試験 (筆記試験)</p>	
<p>授業時間外の学習について</p> <p>▲ 講義とは別に、随時、土曜日の午後を利用して、市内各地にのこるさまざまな「京都の近代」を探しに行きます。これは自由参加の企画です。成績評価には関係ありません。</p> <p>交通費・拝観料などはすべて各自の負担です。</p> <p>「鳥羽・伏見の戦い遺跡」「琵琶湖疏水」「軍隊のあった町」「京都・伏見の町家と酒蔵」「御所・京都府庁・キリスト教」などをテーマに京都の町を歩き、考察していきます。</p>	
<p>学生へのメッセージ</p> <p>一方通行の講義とならないよう、受講生自らが調査した京都に残る産業遺産の事例をレポートにまとめ、報告してもらいます。口頭報告は 2 回あります。</p> <p>講義で学んだことと自らが調べたことを結びつけることで、独自の歴史像を作り上げてもらいます。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし</p>	
<p>参考書</p> <p>千田稔、本多健一、飯塚隆藤、鈴木耕太郎編『京都 まちかど遺産めぐり』ナカニシヤ出版、2014 年</p>	
<p>評価方法</p> <p>(レポートと口頭発表 1) 30 京都の産業遺産に関する現地調査報告・口頭発表 (その 1)</p> <p>(レポートと口頭発表 2) 30 京都の産業遺産に関する現地調査報告・口頭発表 (その 2) 定期試験 40 「京都の近代」を考える視点が見出されているか否か。京都の通り名に関する問題にこたえられるか。</p>	
<p>京女 AL アクティブ・ラーニング区分</p> <p>振り返り、プレゼンテーション、フィールドワーク</p>	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：日本史特殊講義 9	単位数：2
担当教員名：梅田千尋	
対象学生：史学 3	
副題 陰陽道から見る日本宗教史	
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陰陽道・民間信仰を手がかりに、日本前近代の民間信仰・習俗・宗教史について理解を深め、歴史的用語・概念を理解する。 ・ 史料から復元できる「事実」と、伝説・伝承との関係について把握する。 ・ 受講生自身の生活圏や経験に即して授業で扱ったテーマに関連する事象を発見し、歴史的文脈を理解する。 	
授業の概要 十分な歴史史料があるにもかかわらず、歴史的事実から乖離したフィクションが独り歩きしがちな「陰陽道」。その実像について、様々な事例・素材から考え、歴史的・制度的背景への理解を深めていきます。皆さんには授業に対するコメントの提出を求めます。	
授業計画 1 インTRODククション 2 陰陽道の世界観 1—厄年と恵方 3 陰陽道の世界観 2—遊行神と方遣え 4 陰陽道の論理 1—陰陽師の「仕事」 5 陰陽道の論理 2—占いと「式神」 6 陰陽道の論理 3—祭祀 7 陰陽道の論理 4—暦と天変 8 陰陽師の誕生 1—古代 1 9 陰陽師の誕生 2—古代 2 10 陰陽師の展開 1—中世 1 11 陰陽師の展開 2—中世 2 12 陰陽師の実態 1—近世 1 13 陰陽師の実態 2—近世 2 14 陰陽師の実態 3—近代へ 15 まとめ レポト総括	
授業時間外の学習について 授業で理解が難しかった箇所については、辞書・事典を調べたり、レジメに記載している参考文献などを参照して、各自理解を深めてください。分からない言葉は、こまめに調べてみることを。	
学生へのメッセージ <履修上の注意> 毎回レジメ・資料プリントを配布しますが、プリントはあくまで素材提供のためのものです。板書などを参考に、各自考えてノートを作成してください。また、身近なコンテンツのなかで「陰陽道」がどのように描かれているのか、観察してみてください。	
教科書 なし	
参考書 山下克明『陰陽道の発見』（2010年 NHK ブックス） その他授業時に適宜指示する	
評価方法 授業参加 40 授業時コメントペーパー等の内容 レポート 60 授業に関わるレポートの内容	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、授業時間外学習、プレゼンテーション	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：日本史特殊講義 10	単位数：2
担当教員名：梅田千尋	
対象学生：史学 3	
副題 近世京都の信仰拠点—神道・修験道・陰陽道	
授業の到達目標 講義での史料読解と分析を通じ、受講生自身が、歴史的事象を評価・考察する力を身につける。また、講義で身につけた知識を、現代の事象や他の時代の出来事と結びつけて考える応用力を身につける。評価は授業へのコメントとレポートによって行う。	
授業の概要 江戸時代の京都には、仏教諸宗派の本山の他に、神道（吉田家）・陰陽道（土御門家）・修験道（聖護院）といった「本所」と呼ばれる宗教組織の拠点があった。そうした組織や拠点はどのような機能を持っていたのか、また、それらの拠点は地域社会の中でどのような役割を果たしたのか。近世宗教史における位置について考察する。	
授業計画 1. 導入 2. 宗教史における近世 1・中世～近世へ 3. 宗教史における近世 2・江戸幕府の基本政策 4. 宗教史における近世 3・宗教者の諸相 5. 神道本所吉田家 1・「神道史」と吉田家 6. 神道本所吉田家 2・神道本所の組織と性格 7. 神道本所吉田家 3・朝廷社会と吉田家 8. 神道本所吉田家 4・吉田神社の現在 9. 修験道と聖護院 1・修験道史と聖護院 10. 修験道と聖護院 2・幕藩制下の修験組織 11. 修験道と聖護院 3・神仏分離と修験道 12. 陰陽道と土御門家 1・近世の土御門家 13. 陰陽道と土御門家 1・土御門家と配下陰陽師 14. 陰陽道と土御門家 1・近世陰陽道と暦算家 15. まとめ—近代化と宗教組織・レポート総括	
授業時間外の学習について 授業で理解が難しかった箇所については、辞書・事典を調べたり、レジメに記載している参考文献などを参照して、各自理解を深めてください。分からない言葉は、こまめに調べてみることを。	
学生へのメッセージ ＜履修上の注意＞毎回レジメ・資料プリントを配布しますが、プリントはあくまで素材提供のためのものです。板書などを参考に、各自考えてノートを作成してください。レポート作成の文献収集には時間が掛かるとお思いますので、早い目の着手を心がけましょう。	
教科書 なし	
参考書 鈴木正崇『山岳信仰』2015年、中公新書 井上智勝『吉田神道の四百年』2013年、講談社	
評価方法 授業参加 40 授業時コメントペーパー等の内容 レポート 60 授業に関わる課題レポートの内容	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、授業時間外学習、プレゼンテーション、フィールドワーク	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：教養科目 A（芸術と表現 2）	単位数：
担当教員名：前崎信也	
対象学生：大学 1	
副題 文化都市・京都のいま	
授業の到達目標 平安京への遷都以降、京都は日本の文化の中心であり続けてきました。今日の我々が日本的であると感じる多くのものは今もこの地に息づいています。様々な文化・芸術活動の第一線で活躍する講師の方々から現状や課題をお聞きし、京都を学び理解するための基礎知識を身につけることを目標とします。	
授業の概要 リレー講義形式の授業です。、着物・和菓子・日本酒・神社・美術修復などの様々な京都の文化・芸術について、講師の方々から文化都市・京都のいまをお聞きします。毎回の講義の最後に小レポートを提出してもらいます。ゲストスピーカーの都合により、内容が入れ替わったり、変更になることがあります。受講希望者が多い場合は抽選になることがあります。	
授業計画 第 1 回：はじめに 第 2 回：京都の伝統工芸 第 3 回：京都の和菓子 第 4 回：京都のやきもの 第 5 回：京都の漆器 第 6 回：京都の織物 第 7 回：京都のお酒 第 8 回：京都の神社 第 9 回：京都の禅寺 第 10 回：京都の花 第 11 回：京都の文化財修復 第 12 回：京都の町家 第 13 回：京都の電車 第 14 回：京都のものづくり 第 15 回：まとめ	
授業時間外の学習について ゲストスピーカーの先生方については第 1 回目にお名前とご専門をお伝えします。講義の前に自主的に毎回のテーマについて調べ、毎回の小レポートに反映させて下さい。最後に総まとめのレポートを提出していただきますので、毎回の講義の復習も忘れずに行ってください。	
学生へのメッセージ 著名な講師の方が多数来られる授業です。なかなか経験できることではないことを理解し、京都の文化について多くのことを吸収してください。皆さんが京都で学生生活を行なっていく上での、新たな視点を得るきっかけになることを期待しています。	
教科書 なし。必要に応じて資料を配布します。	
参考書 なし。	
評価方法 小レポート 65 毎回の授業の終わりに、講義の内容に関する小レポートを提出する レポート 35 授業全体の内容に関する問題に答える	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：教養科目 A（歴史と文化 1）	単位数：
担当教員名：中前正志	
対象学生：大学 1	
副題 観音霊場清水寺探案	
授業の到達目標 身近に感じながら歴史や文化に対する理解を深めるとともに、大学周辺さらには京都の歴史的・文化的環境に親しむようになる。	
授業の概要 本年は、西国三十三所観音巡礼創始 1300 年とされ、各札所寺院にて種々のイベントが行われたりしている。そこで、大学からすぐ近くに所在する札所寺院の清水寺を取り上げて、その歴史と文化に関する種々の事象について紹介しつつ若干の検討を加えたい。清水寺は、京都を象徴する存在の一つと置いていだろうから、清水寺を知ることが京都を知ることになり、さらには日本を知ることにつながると思われる。なお、清水寺などを各自が実際に訪れてレポートを書いてもらう予定である。	
授業計画 1.西国三十三所観音巡礼一起源と歴史ー 2.さまざまな観音と清水型観音 3.清水寺概観ー歴史と境内ー 4.縁起伝承と音羽滝 5.清水寺参籠 6.清水寺観音の和歌と笠験 7.清水の舞台を舞台とした説話と事件 8.清水寺の焼失と再建 9.古典芸能の中の清水寺 10.清水寺参詣道の風景 11.清水寺と諸寺院との関係 12.清水寺と空也と鹿 13.月照・信海兄弟と西郷隆盛 14.絵馬と絵巻 15.清水焼の展開	
定期試験	
授業時間外の学習について 各回講義内容の復習。次回までに整理して理解しておく。	
学生へのメッセージ 京都の各地へ積極的に出かけるようにしてください。	
教科書 なし	
参考書 横山正幸著『京都 清水寺 さんけいまんだら』、清水寺、2008 年	
評価方法 筆記試験 60 講義内容の理解度 レポート 30 講義で取り上げた場所に訪れて紀行文を書くという課題への取り組み方授業参加状況 10 授業への取り組み方	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 授業内容の振り返りが重要。また、フィールドワークの要素も盛り込む。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：教養科目 B（歴史と文化 3）	単位数：
担当教員名：川島朋子	
対象学生：大学 2	
副題 京都と能・狂言	
授業の到達目標 室町時代に生まれた古典芸能、能と狂言を、特に京都との関わりという観点で読み解く。授業内で学ぶことはもちろん、得た知識を生かして、授業外でも実際の舞台鑑賞、また関係のある史跡などに足を運ぶことを勧めたい。	
授業の概要 能・狂言とはどのような芸能であるかを理解し、作品に触れる。また作品中に見られる中世の都の姿に注目し、現在の京都の町を改めて見直し、史跡を訪れる契機とする。	
授業計画 1. 授業の概要、狂言とは何か 2. 能・狂言の歴史—猿楽からの発展— 3. 能・狂言の歴史—能と狂言の関係— 4. 花見と能 5. 花見と狂言 6. 【東山】と能 7. 【東山】と狂言 8. 信仰と能 9. 信仰と狂言 10. 都の人々と能 11. 都の人々と狂言 12. 狂言と祇園祭—山鉦と能— 13. 狂言と祇園祭—祇園祭と芸能— 14. 狂言と祇園祭—狂言の中の祇園会— 15. まとめ	
授業時間外の学習について 各時間の内容は、授業後に復習し理解しておくこと。また授業で得た知識を踏まえ、古典芸能を鑑賞したり、京都の名所旧跡を訪れることも積極的に行うことが望ましい。これらの体験については、授業内にレポートとして提出することにより、評価の対象とする。	
学生へのメッセージ 京都の大学で学べる利点を十分に生かして、中世に生まれた芸能、能・狂言の魅力に触れてください。	
教科書 なし。配布プリントによる。	
参考書 授業中に指示する。	
評価方法 定期試験 70 授業内容の理解度をはかる。 レポート 10 授業外での古典芸能鑑賞、実地踏査の報告。授業参加状況 20 授業への出席と授業態度。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り…各時間の質問、感想等を書き、提出する。 対話型授業…質問等に答える。 授業時間外学習…学外での古典芸能鑑賞や史跡訪問を行い、レポートとして提出する。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：講読中古A	単位数：2
担当教員名：坂本信道	
対象学生：国文1・2	
副題 『源氏物語』葵の巻	
授業の到達目標 平安時代の物語とは何かを、高校までに習ってきたこととは別の観点から理解する。	
授業の概要 『源氏物語』葵の巻を読み進めながら、併せて『源氏物語』や平安時代についての基礎的な知識や文化・生活習慣などについて説明していく。文学鑑賞ではなく、あくまで大学での平安文学研究という視点から作品の解説を行う。	
授業計画 1. ガイダンス 2. 『源氏物語』を学ぶための基礎知識 3. 『源氏物語』の諸本について 4. 巻名について 5. 執筆・成立について 6. 『源氏物語』の和歌 7. 引歌・引詩 8. 人物論（1） 9. 人物論（2） 10. 作者とその時代 11. 先行文学との関係 12. 後代の物語文学への影響 13. 古註釈書の歴史 14. 総括（1） 15. 総括（2）	
授業時間外の学習について 古典文法をきちんと理解しておくこと。	
学生へのメッセージ 講義を聞いてたちどころにわかるというのは、大学で学ぶべきレベルのことでは期待できないと考えるべし。すぐにわかることなら、わざわざ習う必要はありませんから。この講義は、『源氏物語』の鑑賞をするものではありません。事前に1講義で進む範囲ぐらいは原文を読んでおかないと、理解はおぼつかないでしょう。	
教科書 玉上琢彌訳注『源氏物語』第2巻 末摘花～花散里（角川ソフィア文庫） 角川書店 1965年	
参考書 阿部秋生・秋山虔・今井源衛『源氏物語』1～6 小学館（新編日本古典文学全集）1994年・1998年 須貝稔 秋山虔 小町谷 照彦『源氏物語図典』1997年	
評価方法 レポート100 講義の内容を理解し、自分の言葉でまとめた上で、文章として表現できているか。	
京女ALアクティブ・ラーニング区分 授業時間外学習	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：講説中古B	単位数：2
担当教員名：坂本信道	
対象学生：国文1・2	
副題 『源氏物語』蜻蛉の巻	
授業の到達目標 大学での平安文学研究に必要な基本的な知識・学力・方法を身につける。	
授業の概要 『源氏物語』を読み進めながら、平安時代の文化・生活などを説明し、『源氏物語』及び平安時代文学への理解を深める。	
授業計画 1 『源氏物語』第三部の概要 2 宇治十帖の世界(1) 3 宇治十帖の世界(2) 4 平安時代の身分制度と『源氏物語』 5 薫と匂宮の人物造型 6 源氏物語に描かれた信仰 7 源氏物語と和歌 8 源氏物語絵巻 9 宇治と京 10 死をめぐる問題 11 平安時代の美意識 12 後期物語への展開(1) 13 後期物語への展開(2) 14 まとめ(1) 15 まとめ(2)レポートの書き方 ※上記の項目について、物語の進展にそって適宜説明する。順序は物語の内容に合わせて説明するため、前後することがある。	
授業時間外の学習について その週に取りあげる箇所を、あらかじめ読んでおく。できれば事前に蜻蛉の巻、できれば橋姫の巻から蜻蛉の巻までを原文で読んでおく。現代語訳で読むことは、この講義にとってはあまり意味がないので勧めない。	
学生へのメッセージ 高校までに学んだ古文の知識をよく復習してから講義に臨むこと。	
教科書 角川ソフィア文庫『源氏物語』第10巻 浮舟～夢浮橋 玉上琢彌訳注 角川書店 初版昭和39年 または、蜻蛉の巻本文が収められていれば他のテキストでも可。	
参考書 阿部秋生・秋山虔・今井源衛『源氏物語』1～6 小学館（新編日本古典文学全集）1994年・1998年 須貝稔 秋山 虔 小町谷 照彦『源氏物語図典』1997年	
評価方法 レポート100 講義内容を理解し、自分の言葉で簡潔にまとめて説明できているか。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 授業時間外学習	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：講読中世 A	単位数：2
担当教員名：川島朋子	
対象学生：国文1・2	
副題 室町時代物語を読む	
授業の到達目標 室町時代に成立した短編の物語は、御伽草子、室町時代物語などと総称される。中には現代でも私たちになじみの深い話も少なくない。本授業では、とりわけよく知られた話を中心に、中世の物語として読み解くほか、時代によってどのような変遷をたどっているかという面にも目を向け、物語が時代によってどのように人々に受容されてきたのかを考えたい。	
授業の概要 語釈、注釈などの作業を行いながら、読み解いていく。個人、またはグループで作業を行い、発表、質疑応答など、受講人数に応じて進め方を考える。	
授業計画 1. 授業の概要 2. 室町時代物語について 3. 『一寸法師』を読むー作品の成立ー 4. 『一寸法師』を読むー昔話との関係ー 5. 『一寸法師』を読むー近世以降の変遷ー 6. 『酒吞童子』を読むー諸本の関係ー 7. 『酒吞童子』を読むー能《大江山》ー 8. 『酒吞童子』を読むー坂田金時（金太郎）へー 9. 『鉢かづき』を読むー諸本の関係ー 10. 『鉢かづき』を読むー継子譚の系譜ー 11. 『鉢かづき』を読むー女性の教養と幸せー 12. 『浦島太郎』を読むー上代からの流れー 13. 『浦島太郎』を読むー室町時代物語の意図ー 14. 『浦島太郎』を読むー近世から現代へー 15. まとめ	
授業時間外の学習について 自分の分担当所についての準備はもちろんのこと、他の人の発表の際にも、事前に目を通して予習しておくこと。	
学生へのメッセージ <履修上の注意> 授業には積極的な姿勢で臨み、他の受講生に迷惑となるような行為は慎むこと。 <受講生に求めること> 課題や発表の準備などを怠らないこと。	
教科書 なし。配布プリントによる。	
参考書 授業中に指示する。	
評価方法 授業参加状況 30 出席、受講態度を含む。 レポート 70 授業の理解度をはかる。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り…各時間の感想、質問などをまとめる。 対話型授業…受講生からの質問に答える。 授業時間外学習…授業中に課題を出し、翌週までに行う。 グループ学習…発表を行う場合、グループで担当する。 ディスカッション…発表の際に質疑応答を行う。 プレゼンテーション…発表を担当する際に行う。	

授業紹介「シラバス」

<p>授業科目名：講読中世 B</p>	<p>単位数：2</p>
<p>担当教員名：川島朋子</p>	
<p>対象学生：国文1・2</p>	
<p>副題 室町時代の喜劇—狂言を読む</p>	
<p>授業の到達目標 狂言の歴史を理解し、江戸時代に書かれた台本によって、作品を読み解く。流派や台本の種類を把握した上で、自ら台本に当たって注釈的に解説する能力を養う。調査結果をまとめ、分かりやすく示す方法を考え、基礎演習A・Bや演習I A・Bにもつながる能力を身につける。期末レポートだけでなく、何度か課題を課し、その提出による評価も重視する。文章の意味を理解するだけでなく、舞台芸術、喜劇としての性質も念頭に置いて、総合的な作品理解ができるようにする。</p>	
<p>授業の概要 狂言の歴史や性質について、講義形式で解説する。また狂言の流派や現在残っている台本について理解し、具体的に江戸時代に書かれた台本を中心に、作品の解説を行う。語彙の意味を調べるところから、作品全体の把握まで段階的に行えるよう指導する。受講人数によって、個人発表、グループ発表等行う予定である。人数が多い場合も、全員が同じ手順を学べるよう、レポート提出などにより指導を行う。狂言は演劇であるので、実際の現在の舞台映像なども用い、より深い理解につなげる。</p>	
<p>授業計画 1. 授業の概要 2. 狂言の性格 3. 狂言の歴史—室町時代の狂言— 4. 狂言の歴史—近世以降の狂言— 5. 狂言の流派と台本 6. 狂言のことば 7. 狂言を読む—韻彙から読み解く— 8. 狂言を読む—流派による違い— 9. 狂言を読む—登場人物に注目する— 10. 狂言を読む—中世の時代背景— 11. 狂言を読む—狂言の笑いの性質— 12. 狂言を読む—演出に注目する— 13. 狂言を読む—台本の変遷— 14. 狂言を読む—『わらんべ草』の記述から— 15. まとめ</p>	
<p>授業時間外の学習について 各時間の講義内容を、その都度よく振り返り、理解すること。また授業期間内に発表や小レポートを課した場合は、期限を守って取り組むこと。</p>	
<p>学生へのメッセージ 授業には真剣な態度で臨むこと。他の学生に迷惑をかけるような行為は許されない。室町時代の喜劇である狂言は、その台本は一見難しいそうではあるが、内容に触れてその楽しさを理解し楽しく学んでほしい。また京都では、実際の狂言の舞台を見ることも可能なので、積極的に生の舞台にも触れて理解を深めてほしい。</p>	
<p>教科書 なし 授業中に配布のプリントによる。</p>	
<p>参考書 小山弘志ほか『岩波講座 能・狂言 V 狂言の世界』、岩波書店、1987年</p>	
<p>評価方法 レポート 60 授業内容を踏まえ、テーマに沿って作成、期末に提出する。授業の理解度をはかる。 発表・小レポート 20 授業期間内の発表や小レポート提出により評価する。授業参加状況 20 出席状況、授業態度により評価する。</p>	
<p>京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、授業時間外学習を主に実施する。場合によってはグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションも取り入れる。</p>	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：演習ⅠA（国語学）	単位数：2
担当教員名：田上稔	
対象学生：国文3	
副題 日本語の方言	
授業の到達目標 まず、京都の文化のなかで、大きな位置を占める「京言葉」について学びます。指定されたテキストの中から自分が興味を持った言語事象について、各自が調べたことを発表していただきます。1つの方言を分析することが、やがては、他の方言への関心呼び覚ますかもしれません。	
授業の概要 まず、「京言葉」について、授業担当者が概説します。 前期中は、指定されたテキストの中から自分が興味を持った言語事象について、各自が調べたことを、順番に発表していただきます。発表後、適宜、質疑応答をおこないます。 本演習は、1回生時の「国語学概説」、2回生時の「講読国語学」を承けて、日本語について更に深く学びます。	
授業計画 1. ガイダンス 2. 学生発表 3. 学生発表 4. 学生発表 5. 学生発表 6. 学生発表 7. 学生発表 8. 学生発表 9. 学生発表 10. 学生発表 11. 学生発表 12. 学生発表 13. 学生発表 14. 学生発表 15. まとめ	
授業時間外の学習について ・発表の準備を念入りしておいてください。リハーサルをして、時間の過不足が無いが、必ずチェックしておいてください。 ・授業でお話したことを、次の授業までに見直しておいてください。特にノートの整理をきちんとしておいてください。	
学生へのメッセージ <履修上の注意>積極的に議論に参加してください。 <自主学習>参考文献を参照してください。	
教科書 初回授業時に指示します。	
参考書 適宜、紹介します。	
評価方法 前期発表 80 「京言葉」について、各自の選択した主題について、文献検索、諸文献内容比較分析等が、適切にできているかどうかを評価します。 演習への参加状況 20 演習への参加状況を評価します。	
京女ALアクティブ・ラーニング区分 振り返り、対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：演習 I B (国語学)	単位数：2
担当教員名：田上稔	
対象学生：国文 3	
副題 日本語の方言	
授業の到達目標 前期の京ことばに関する学修を受けて、後期には、各自の出身地の方言について調べたことを発表していただきます。そこには、自分の生まれ育った地方の言葉への愛着と反感とを読み解く鍵があるでしょう。また、「日本語」そのものも、見えてくるかもしれません。	
授業の概要 前期の京ことばに関する学修を受けて、後期には、各自の出身地の方言について調べたことを発表していただきます。そこには、自分の生まれ育った地方の言葉への愛着と反感とを読み解く鍵があるでしょう。また、「日本語」そのものも、見えてくるかもしれません。 1 回生時の「国語学概説」、2 回生時の「講読国語学」を受けて、日本語について更に深く学びます。4 回生で卒業論文を執筆するための基本的な訓練という位置づけももちます。	
授業計画 1. ガイダンス 2. 学生発表 3. 学生発表 4. 学生発表 5. 学生発表 6. 学生発表 7. 学生発表 8. 学生発表 9. 学生発表 10. 学生発表 11. 学生発表 12. 学生発表 13. 学生発表 14. 学生発表 15. まとめ	
授業時間外の学習について ・発表の準備を念入りにしておいてください。リハーサルをして、時間の過不足が無いか、必ずチェックしておいてください。 ・授業でお話ししたことを、次の授業までに見直しておいてください。特にノートの整理をきちんとしておいてください。	
学生へのメッセージ <履修上の注意>積極的に議論に参加してください。 <自主学习>参考文献を参照してください。	
教科書 初回授業時に指示します。	
参考書 演習中に、適宜、紹介します。	
評価方法 発表 80 各自の選択した方言について、文献検索、諸文献内容比較分析等が、適切にできているかどうかを評価します。 演習への参加状況 20 演習への参加状況を評価します。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習A	単位数：2
担当教員名：坂本信道	
対象学生：国文2	
副題 京都の文学を訪ねる	
授業の到達目標 京都は古典から近現代にいたるまで、文学の舞台となっている場所に満ちています。各人の関心にしたがって、京都もしくはその近郊の文学を読み、調べます。自分で作った資料をもとに、他人の前でわかりやすく発表する能力を身につけましょう。	
授業の概要 ひとりひとり、文学作品の舞台となった場所・古跡などについて、まず作品でどのように登場するかを紹介し、それを補足するかたちで、さまざまな関連資料を調べ、プリント作成し、発表します。現地に赴いて踏査することもあります。天候等により、発表と現地踏査の日程が変更になることがあります。	
授業計画 1.ガイダンス（1）基本的な調査方法などについて 2.ガイダンス（2）資料の作り方 3.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 4.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 5.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 6.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 7.実地踏査 8.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 9.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 10.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 11.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 12.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 13.実地踏査 14.総括（1） 15.総括（2）	
授業時間外の学習について 自分の関心を持った文学の舞台を日ごろから探訪する。また、授業で他の学生が発表した作品なども積極的に読むように勤め、知見を広める。	
学生へのメッセージ この授業でもっとも忌むべきは、無関心と横着です。必要なのは、誠意と根気です。すぐに身についたり、役立つものは、底が浅いもの。	
教科書 演習時に担当者が作成して配布するプリント。	
参考書 演習時に必要に応じて紹介する。	
評価方法 授業参加状況 40 真摯に取り組んで、発表・質疑に積極的に参加できているか。 発表 30 正しい資料の使い方、調査の方法を身につけて、明瞭に発表できたか。レポート 30 演習時の指摘等を承けて、修正等に反映できているか。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 対話型授業 プレゼンテーション フィールドワーク	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習B	単位数：2
担当教員名：坂本信道	
対象学生：国文2	
副題 京都の文学を訪ねる	
授業の到達目標 京都は古典から近現代にいたるまで、文学の舞台となっている場所に満ちています。各人の関心にしたがって、京都もしくはその近郊の文学を読み、調べます。自分で作った資料をもとに、他人の前でわかりやすく発表する能力を身につけましょう。	
授業の概要 ひとりひとり、文学作品の舞台となった場所・古跡などについて、まず作品でどのように登場するかを紹介し、それを補足するかたちで、さまざまな関連資料を調べ、プリント作成し、発表します。現地に赴いて踏査することもあります。天候等により、発表と現地踏査の日程が変更になることがあります。	
授業計画 1.ガイダンス 2.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 3.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 4.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 5.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 6.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 7.実地踏査 8.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 9.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 10.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 11.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 12.担当者による発表と、それを聴いての出席者による質疑 13.実地踏査 14.総括（1） 15.総括（2）	
授業時間外の学習について 自分の関心を持った文学の舞台を日ごろから探訪する。また、授業で他の学生が発表した作品なども積極的に読むように勧め、知見を広める。	
学生へのメッセージ この授業でもっとも忌むべきは、無関心と横着です。必要なのは、誠意と根気です。すぐに身についたり、役立つものは、底が浅いもの。	
教科書 演習時に担当者が作成して配布するプリント。	
参考書 演習時に必要に応じて紹介する。	
評価方法 授業参加状況 40 真摯に取り組んで、発表・質疑に積極的に参加できているか。 発表 30 正しい資料の使い方、調査の方法を身につけて、明瞭に発表できたか。レポート 30 演習時の指摘等を承けて、修正等に反映できているか。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 対話型授業 プレゼンテーション フィールドワーク	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習A	単位数：2
担当教員名：中前正志	
対象学生：国文2	
副題 東山中世文学探求	
授業の到達目標 国文学関係の史跡などを实地に踏査する方法を習得すると共に、そうしたことに対する関心を高める。また、問題点を見定め諸資料などを調べて検討する際の基本姿勢などを身に付ける。	
授業の概要 京都市東山区をいくつかのブロックに分割して、各班が1ブロックずつ担当、そのブロック内に所在する中世文学関係の史跡などを探査して報告する。また、それら史跡を各自一つずつ取り上げ、その史跡に関わる中世文学自体について、あるいは同史跡と文学との関わりのあるあり方について、任意のテーマを設定したうえで、諸資料を調べ検討してきて、発表する。さらに、各ブロックに全員を案内して实地に説明する。京都が文学関係の史跡に恵まれている環境を生かし、また、大学に一層近い東山区を対象とすることによって、より身近にそれら史跡が感じられ	
授業計画 1. ガイダンス（授業概要や種々打ち合わせなど） 2. 大学周辺踏査 3. 大学周辺踏査に基づく検討 4. 第1ブロック踏査 5. 第1ブロックに関する発表 6. 第2ブロック踏査 7. 第2ブロックに関する発表 8. 第3ブロック踏査 9. 第3ブロックに関する発表 10. 第4ブロック踏査 11. 第4ブロックに関する発表 12. 第5ブロック踏査 13. 第5ブロックに関する発表 14. 第6ブロック踏査 15. 第6ブロックに関する発表	
授業時間外の学習について 担当ブロックについての探査と調査・検討。 発表の仕方を工夫しつつ、資料を作成する。	
学生へのメッセージ 他の受講生の発表にも充分耳を傾け、関心を持つようにしてください。 また、これを機に、授業で取り上げる以外の史跡などについても、積極的に訪れるようにしてください。	
教科書 なし	
参考書 なし	
評価方法 授業参加状況 40 出席状況や受講態度を見て評価する。 発表 30 授業中の発表のあり方を見て評価する。レポート 30 踏査や調査・検討のあり方を見て評価する。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワークが、中心となる。特にフィールドワークにできる限り重点を置く。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習B	単位数：2
担当教員名：中前正志	
対象学生：国文2	
副題 東山中世文学探求	
授業の到達目標 国文学関係の史跡などを实地に踏査する方法を習得すると共に、そうしたことに対する関心を高める。また、問題点を見定め諸資料などを調べて検討する際の基本姿勢などを身に付ける。	
授業の概要 京都市東山区をいくつかのブロックに分割して、各班が1ブロックずつ担当、そのブロック内に所在する中世文学関係の史跡などを探査して報告する。また、それら史跡を各自一つずつ取り上げ、その史跡に関わる中世文学自体について、あるいは同史跡と文学との関わりのある方について、任意のテーマを設定したうえで、諸資料を調べ検討してきて、発表する。さらに、各ブロックに全員を案内して实地に説明する。京都が文学関係の史跡に恵まれている環境を生かし、また、大学に一層近い東山区を対象とすることによって、より身近にそれら史跡が感じられ	
授業計画 1. ガイダンス（授業概要や種々打ち合わせなど） 2. 大学周辺踏査 3. 大学周辺踏査に基づく検討 4. 第1ブロック踏査 5. 第1ブロックに関する発表 6. 第2ブロック踏査 7. 第2ブロックに関する発表 8. 第3ブロック踏査 9. 第3ブロックに関する発表 10. 第4ブロック踏査 11. 第4ブロックに関する発表 12. 第5ブロック踏査 13. 第5ブロックに関する発表 14. 第6ブロック踏査 15. 第6ブロックに関する発表	
授業時間外の学習について 担当ブロックについての探査と調査・検討。 発表の仕方を工夫しつつ、資料を作成する。	
学生へのメッセージ 他の受講生の発表にも充分耳を傾け、関心を持つようにしてください。 また、これを機に、授業で取り上げる以外の史跡などについても、積極的に訪れるようにしてください。	
教科書 なし	
参考書 なし	
評価方法 授業参加状況 40 出席状況や受講態度を見て評価する。 発表 30 授業中の発表のあり方を見て評価する。レポート 30 踏査や調査・検討のあり方を見て評価する。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワークが、中心となる。特にフィールドワークにできる限り重点を置く。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習A	単位数：2
担当教員名：川島朋子	
対象学生：国文2	
副題 京都と能	
授業の到達目標 能、狂言の歴史や性質について理解する。また能の作品を分担して注釈を行い発表することにより、国文学研究の基礎を身に付ける。また実際に能や狂言に関わりのある場所の实地踏査もを行い、さらに理解を深める。	
授業の概要 能や狂言の作品に見える中世の都を読み解く。能の詞章である謡曲の注釈と発表を行うことにより、文献の調査方法や辞書の使い方、考察方法などを身に付け、国文学研究の基礎能力を養う。	
授業計画 1. 授業の概要、オリエンテーション 2. 能と狂言の歴史 3. 能の謡本について 4. 能の作品研究について 5. 今熊野神社周辺の实地踏査 6. 能〈田村〉について 7. 能〈田村〉を読む—学生①の発表— 8. 能〈田村〉を読む—学生②の発表— 9. 能〈田村〉を読む—学生③の発表— 10. 能〈田村〉を読む—学生④の発表— 11. 能〈田村〉を読む—学生⑤の発表— 12. 能〈田村〉を読む—学生⑥の発表— 13. 清水寺周辺の实地踏査 14. 狂言の作品にみる都 15. まとめ	
授業時間外の学習について 各授業の内容はその都度復習して理解すること。発表の準備は入念に行うこと。	
学生へのメッセージ 研究の方法を学び、演習ⅠA・Bにもつなげる能力を養う。どの分野にも共通する点が多いので、今後の研究の基礎をしっかりと身につけられるよう臨むこと。	
教科書 なし 授業中に配布のプリントによる。	
参考書 なし 授業内に指示する。	
評価方法 授業参加状況 40 授業への出席状況と授業態度により評価する。 発表 30 発表と質疑応答により評価する。レポート試験 30 授業の理解度、研究の内容により評価する。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り…自身の発表内容について質疑応答の内容を踏まえ、再度検討する。 対話型授業…発表内容についての指導、教員への質問。 授業時間外学習…発表にむけての調査、発表準備。 ディスカッション…発表に関して質疑応答を行う。 プレゼンテーション…自身が調査した内容を分かりやすく発表する。 フィールドワーク…大学周辺の能に関わる史跡を巡る。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習B	単位数：2
担当教員名：川島朋子	
対象学生：国文2	
副題 京都と能	
授業の到達目標 能、狂言の歴史や性質について理解する。また能の作品を分担して注釈を行い発表することにより、国文学研究の基礎を身に付ける。また実際に能や狂言に関わりのある場所の現地踏査も行い、さらに理解を深める。	
授業の概要 能や狂言の作品に見える中世の都を読み解く。能の詞章である謡曲の注釈と発表を行うことにより、文献の調査方法や辞書の用い方、考察方法などを身に付け、国文学研究の基礎能力を養う。	
授業計画 1. 授業の概要、オリエンテーション 2. 能と狂言の歴史 3. 能の謡本について 4. 能の作品研究について 5. 今熊野神社周辺の現地踏査 6. 能〈田村〉について 7. 能〈田村〉を読む—学生①の発表— 8. 能〈田村〉を読む—学生②の発表— 9. 能〈田村〉を読む—学生③の発表— 10. 能〈田村〉を読む—学生④の発表— 11. 能〈田村〉を読む—学生⑤の発表— 12. 能〈田村〉を読む—学生⑥の発表— 13. 清水寺周辺の現地踏査 14. 狂言の作品にみる都 15. まとめ	
授業時間外の学習について 各授業の内容はその都度復習して理解すること。発表の準備は入念に行うこと。	
学生へのメッセージ 研究の方法を学び、演習I・A・Bにもつなげる能力を養う。どの分野にも共通する点は多いので、今後の研究の基礎をしっかりと身につけられるよう励むこと。	
教科書 なし 授業中に配布のプリントによる。	
参考書 なし 授業内に指示する。	
評価方法 授業参加状況 40 授業への出席状況と授業態度により評価する。 発表 30 発表と質疑応答により評価する。レポート試験 30 授業の理解度、研究の内容により評価する。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り…自身の発表内容について質疑応答の内容を踏まえ、再度検討する。 対話型授業…発表内容についての指導、教員への質問。 授業時間外学習…発表にむけての調査、発表準備。 ディスカッション…発表に関して質疑応答を行う。 プレゼンテーション…自身が調査した内容を分かりやすく発表する。 フィールドワーク…大学周辺の能に関わる史跡を巡る。	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習A	単位数：2
担当教員名：滝川幸司	
対象学生：国文2	
副題 河原院の文学	
授業の到達目標 河原院にまつわる文学作品の精読を通して漢詩文の読解方法を学ぶ。	
<p>授業の概要</p> <p>河原院は『源氏物語』夕顔巻で、夕顔が怪死した「なにがしの院」のモデルとして著名であるが、文学作品が作られる場としても重要である。河原院には多くの歌人や漢詩人が集まり、和歌や漢詩文が作られた。本演習では、その中でも漢文作品を精読する。『本朝文粹』所収の賦を対象とする。</p> <p>関連科目 漢文学A</p>	
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー河原院の文学概説 2. 賦という文体について 3. 対句を読む方法 4. 本朝文粹について 5. 漢詩文読解の手順についてー漢詩文資料についてー 6. 漢詩文読解の手順についてー出典と用例ー 7. 漢詩文読解の手順についてーデータベースの使用法ー 8. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（一） 9. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（二） 10. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（三） 11. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（四） 12. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（五） 13. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（六） 14. 実地踏査 15. まとめと総括 	
<p>授業時間外の学習について</p> <p>授業で読む作品は限られているので、授業中に参考として紹介した作品は、各自で読むようにすること。</p>	
<p>学生へのメッセージ</p> <p>多くの資料をできるだけ読む／見るようにすること。 漢和辞典を携行すること。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし</p>	
<p>参考書</p> <p>後藤昭雄『本朝文粹抄』（勉誠出版・2006年）</p>	
<p>評価方法</p> <p>発表内容 40 正確な注釈ができているか。 議論参加 30 担当者の発表内容を理解できているか。レポート 30 注釈に基づき、議論の展開ができているか。</p>	
<p>京女 AL アクティブ・ラーニング区分</p> <p>振り返り、対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク</p>	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習B	単位数：2
担当教員名：滝川幸司	
対象学生：国文2	
副題 河原院の文学	
授業の到達目標 河原院にまつわる文学作品の精読を通して漢詩文の読解方法を学ぶ。	
<p>授業の概要</p> <p>河原院は『源氏物語』夕顔巻で、夕顔が怪死した「なにがしの院」のモデルとして著名であるが、文学作品が作られる場としても重要である。河原院には多くの歌人や漢詩人が集まり、和歌や漢詩文が作られた。本演習では、その中でも漢文作品を精読する。『本朝文粹』所収の賦を対象とする。</p> <p>関連科目 漢文学A</p>	
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー河原院の文学概説 2. 賦という文体について 3. 対句を読む方法 4. 本朝文粹について 5. 漢詩文読解の手順についてー漢詩文資料についてー 6. 漢詩文読解の手順についてー出典と用例ー 7. 漢詩文読解の手順についてーデータベースの使用方法ー 8. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（一） 9. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（二） 10. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（三） 11. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（四） 12. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（五） 13. 担当者による発表・本朝文粹・河原院賦（六） 14. 実地踏査 15. まとめと総括 	
<p>授業時間外の学習について</p> <p>授業で読む作品は限られているので、授業中に参考として紹介した作品は、各自で読むようにすること。</p>	
<p>学生へのメッセージ</p> <p>多くの資料をできるだけ読む／見るようにすること。 漢和辞典、古語辞典を携行すること。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし</p>	
<p>参考書</p> <p>後藤昭雄『本朝文粹抄』（勉誠出版・2006年）</p>	
<p>評価方法</p> <p>発表内容 40 正確な注釈ができているか。 議論参加 30 担当者の発表内容を理解できているか。レポート 30 注釈に基づき、議論の展開ができているか。</p>	
<p>京女 AL アクティブ・ラーニング区分</p> <p>振り返り、対話型授業、授業時間外学習、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク</p>	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習A	単位数：2
担当教員名：田上稔	
対象学生：国文2	
副題 京都の街に、日本語の過去・現在・未来を学ぶ。	
授業の到達目標 音声・音韻、語彙、文法、文体等にわたる日本語の過去・現在・未来を、京都を舞台とした文学作品を題材として、多角的に学びます。	
授業の概要 京都の街は、古くから文学の舞台となってきました。そうした文学作品の日本語を通して、日本語の過去・現在・未来を学びます。各学生さんが、興味のある時代・作者の文学作品を選び、そこに用いられている日本語を、日本語の歴史という観点から、分析し、発表してもらいます。そして、最後に、それら発表の中で、参加者が最もおもしろいと評価した発表の文学作品の舞台を、実際に訪れてみたいとおもいます。 3回生履修の演習Iでの学修のために、基礎的な文献調査方法等を学びます。	
授業計画 1. ガイダンス 2. 学生発表 3. 学生発表 4. 学生発表 5. 学生発表 6. 学生発表 7. 学生発表 8. 学生発表 9. 学生発表 10. 学生発表 11. 学生発表 12. 学生発表 13. 学生発表 14. まとめ 15. 学外実地研修	
授業時間外の学習について ・発表の準備を念入りにしておいてください。リハーサルをして、時間の過不足が無いが、必ずチェックしておいてください。 ・授業でお話ししたことを、次の授業までに見直しておいてください。特にノートの整理をきちんとしておいてください。	
学生へのメッセージ <履修上の注意>積極的に演習に参加してください。 <自主学習>	
教科書 初回授業時に指示します。	
参考書 適宜、指示します。	
評価方法 授業参加状況 40 発表者への質問等、授業への参加状況を評価します。 発表 30 発表時のレジュメ、発表態度、発表内容等を評価します。レポート 30 発表内容をレポートとしてまとめてもらいます。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、対話型授業、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク	

授業紹介「シラバス」

授業科目名：基礎演習B	単位数：2
担当教員名：田上稔	
対象学生：国文2	
副題 京の街に、日本語の過去・現在・未来を学ぶ。	
授業の到達目標 音声・音韻、語彙、文法、文体等にわたる日本語の過去・現在・未来を、京都を舞台とした文学作品等を題材として、多角的に学びます。	
授業の概要 京都の街は、古くから文学の舞台となってきました。そうした文学作品の日本語を通して、日本語の過去・現在・未来を学びます。各学生さんが、興味のある時代・作者の文学作品を選び、そこに用いられている日本語を、日本語の歴史という観点から、分析し、発表してもらいます。そして、最後に、それら発表の中で、参加者が最もおもしろいと評価した発表の文学作品の舞台を、実際に訪れてみたいとおもいます。	
授業計画 1. ガイダンス 2. 学生発表 3. 学生発表 4. 学生発表 5. 学生発表 6. 学生発表 7. 学生発表 8. 学生発表 9. 学生発表 10. 学生発表 11. 学生発表 12. 学生発表 13. 学生発表 14. まとめ 15. 学外実地研修	
授業時間外の学習について ・発表の準備を念入りしておいてください。リハーサルをして、時間の過不足が無いか、必ずチェックしておいてください。 ・授業でお話ししたことを、次の授業までに見直しておいてください。特にノートの整理をきちんとしておいてください。	
学生へのメッセージ <履修上の注意>積極的に演習に参加してください。 <自主学習>	
教科書 初回授業時に指示します。	
参考書 適宜、指示します。	
評価方法 授業参加状況 40 発表者への質問等、授業への参加状況を評価します。 発表 30 発表時のレジュメ、発表態度、発表内容等を評価します。レポート 30 発表内容をレポートとしてまとめてもらいます。	
京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、対話型授業、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク	